



ぴっぴだより

No.7. 2022. 9. 30

小さな頃の私

子どもたちと過ごしていると自分の幼児期を思い出すことがあります。私は望月の鹿曲川沿いで4歳までを過ごしました。祖父母との同居だったので、3歳の保育園入園までを年子の妹と祖母と3人で近所のお茶飲みに参加しながら過ごしていたのを覚えています。大人の会話に交じって良く話す、おませでおしゃべりな子どもでした。暇があれば外に飛び出し、沢蟹を捕まえたり、草花でおまごとをしたり…。ゲンジボタルが多く生息していた時代で、母の言葉に耳を貸さず虫かごいっぱいを持ち帰り、翌朝カゴの中で動かなくなったホタルに涙したこともありました。何か特別があったわけでもなく、ゆったりとした時間の中で過ごした日々は、大人になった今でもとても満たされた時間だったと感じています。

恵まれた環境の一方で母子関係には少し問題があったかもしれません。初孫で同居の祖父母は私を手放さず、母自身辛い思いをしたようです。妹をお産して病院から戻った日、「お母さんと寝る！」と泣く私を祖父母が寝室に連れていった時は、自室で泣きながら物を投げたと聞きました。私はどんなに寂しくても「お母さんと一緒にいい！」と泣いた記憶がありません。お母さんがいいと言えば、祖母にたしなめられていたことを覚えています。また母は祖母に訴えても怒られ聞き入れてもらえず、悶々とした思いで私を手放す日々。母を求めることを諦めた私は、3歳の入園時も泣くことなく、転園後の保育園登園も入口であっさりばいばい。妹は毎日のように入口で「お母さんがいい」と泣き叫び母を困らせていたのを覚えています。短大で専門的に学んだ今、小さな私の記憶と向き合うとお母さんの愛情に飢えていたのかも…私たち親子は愛着形成に失敗していたのかな？と感じてしまうのです。祖父母の愛情が極端に偏っていたことで、妹を守るようにかわいがっていた母の姿に小さな私はモヤモヤ…。もっと私を見て！と言う気持ちは妹へのいじわるに変わり、ことある事に妹を泣かせていました。ホームビデオに映る私は、妹と仲良く粘土で遊んでいたかと思えば突然、粘土の塊を妹の頭に乘せていじわる。泣きだす妹の姿に母はビデオ片手に「みのり！かすみにいじわるいないの！お姉ちゃんでしょ！」と声を荒げています。この状況に私はニヤニヤと笑ってカメラ目線。この時の事は今でも鮮明に覚えています。私の隣でのんきな顔で楽しそうに遊ぶ妹を見ているとイライラする…。 “泣かせてやる！えい！かすみは泣けばいいんだ…” 怒る母には “お母さんはいつもかすみばかり…お姉ちゃんなんだからっていつも言う” 今考えると母を独り占めしているように見える妹へのやきもちですよね。小さい私は意地っ張りでいじわるで、時々みんなの視線を独占したがるお調子者で、素直に甘えることができないひねくれた子どもだったと思います。その後、祖父母と別居し足りなかった時間を補うように過ごした日々。保育園に行かずに毎日を母と妹と過ごした数か月、弟が生まれるまでの3年間は私にとって穏やかでかけがえのない思い出になっています。

一日の終わりにお母さんに抱きしめられるぴっぴの子どもたち。今はもう小さな私は居ないけど、あの頃の私に“うらやましいね”と声を掛けつつ、お母さんに抱き留められる子どもたちの笑顔にじんわりと心が温まる幸せを感じています。大人になって振り返った時、かけがえのない思い出になるだろうと思わずにはいられません。

「みんなでどうぞ、おかあさ～ん」、あの時間が大好きです。

：佐藤美典

木
木木のいきもの子育てばなし

10月

朝晩だいぶ涼しくなり、森も秋めいてきましたね。まだ森の木の葉は緑のものが多いですが、近づいてみると赤、青、紫、黒と色とりどりの木の葉が目を楽しませてくれます。

末々はすばせ、あんなに美しい実をつけるのでしょか。

それは、子育てのため。どういふことか。森林の中で観察してみよう。

亀づいて木の實をついばみに様々に小鳥たちがやって来ず。

鳥たちは緑におおわれた葉の中で、色も目印に
木の実を

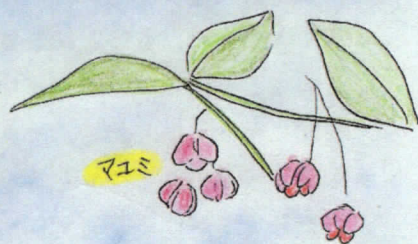
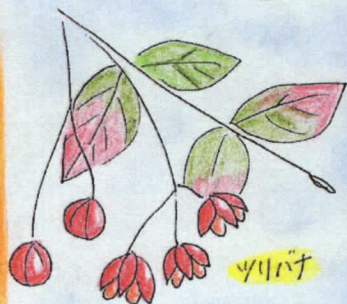


食べにやってきました。その木の子育てには、鳥が大きい

関係しているのです。鳥の目には赤、黒、青、紫などの色が

よくみえる所で、~~木~~木にはその色合いの実が多くみられます。

木の実は鳥にたべてもらうためにあんなに鮮やかな色をして
いるのです。



しかし、ただ食べてもらうだけでは木が一生懸命

育てた木の実(子どもたち)がすくすく

しまいます。けれども実は木の実は(果物)なども

そうですが)果肉がやわらかく種を守り、フンから



たんたん はたけ

2学期 始まってすぐのおおきくみの日にかかし作り。その翌週には おおくりさんと ひろひろの火田にじゃがいも掘りに行き、その後日 じゃがいもづくしのお料理の日がありました。おおきい人たち 大忙し。そして ひろひろの田んぼの稲刈りの日も近づいています。

ひろひろの田んぼの稲は 少しまわりの田んぼの稲よりも背が高いことに 気づくかもしれません。農薬や肥料を使う以前の定番品種「ササシグレ」と言います。昭和36年には東北地方で第1位の栽培面積を記録、しかし倒伏や病気に弱いという性質から、昭和38年を境にして、ササシグレのことも、ササニシキにその座を譲り、昭和46年以降 姿を消し、現在では 極一部の農家でのみ栽培が継続されているのが現状で、スーパーマーケットや一般小売店などの市場に出回ることがほとんどなく、それ故に玄米のお米とされているそうです。

奇跡のリンゴの木村 秋則さんが、ササシグレを絶やさないようにと苗を分けてくださったのが、この縁で えりさんのご主人のところにきて、それを分けてもらって ひろひろの田んぼに きたわけです。

すきりして甘すぎず、後味がよい。地域・生産者によって違う特長が出る面白い品種。人によっては強烈に「はまる」品種とあります。ササニシキの父にあたる品種ながら、「子であるササニシキも 味だけはササシグレを 越えられなかった」と言われています。

大地にしっかり力強く根をはるお米を ザックザック 収穫して、実りを感じられように。

親子で稲刈り遠足のお知らせ

みんなで植えた田んぼの稲が金色に近づいてきました。
金色の穂が垂れている景色は秋の実里を感じます。
ひろひろでは機械に頼らずにひとりひとり鎌を持ち丁寧に
稲を刈り、藁で稲を束縛り、はぜかけをします。

おおきいくみの子ども達から生まれた案山子たちも田んぼで
お待ちかねです。

親子みんなで稲刈りをしましょう。

とき 10月4日(火) 予備として5日(水)、11日(火)

※前日が雨で稲が濡れている場合も延期します。

集合 午前9時～9時15分(20分に朝の集まりを始めます)

解散 昼食後解散

ところ ひろひろの田んぼ(発地 ほたるの里)

持ち物 お弁当、水筒、お手拭き、着替え、替えの靴、タオル、
敷物、雨具、上着(風が吹く日は寒くなります)、
草刈り鎌(貸し出し用が数本ありますが、できるだけ
ご準備ください)

服装 長袖長ズボンの汚れてもいい服、帽子、田んぼ靴または長靴、軍手

トイレ・水道 トイレは県道沿いにある公共トイレをご利用ください。できるだけ
直前に済ませて集合してください。スタッフが水のタンクをいくつか
用意しますので手洗いに ご利用ください。

馬主車スペース 田んぼ横の空き地に馬主車できます。
入口が狭いのでご注意ください。近隣住民のご迷惑に
ならないよう住宅地の走行はできるだけ控えてください。

雨天予報やあやふやな天気の際は、前夜または当日朝7時ごろにメールで
連絡します。

田んぼのことの質問は 新井・渡辺にお気軽に お声掛けください。